

県立水戸農業高等学校自己評価表

目指す学校像	知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
[昨年度の成果] ・授業、立哨指導あるいは保護者との連携等を通した反復指導で基本的生活習慣を身に付けさせるための指導を行った。 ・進路指導において、国立大学1名、農業系大学11名を含む18人が4年生大学に、4人が短期大学に合格。また、2年連続での市役所職員への合格など、就職率も100%を達成した。 ・馬術部、相撲部の全国大会出場を始め、各部とも優秀な成績を収めることができた。 ・北海道農業実習の継続に加えて導入した、種子島農業実習を軌道に乗せることができた。 ・農業クラブ全国大会（岡山大会）農業鑑定競技への出場、農業クラブ関東大会プロジェクト発表での優秀賞の受賞など、農業の各部門で優秀な成績を収めることができた。 ・難関国家資格である2級土木施工管理技術検定の6名合格をはじめ、多くの資格取得合格者を出すことができた。 [本年度の課題] ・規範意識を高め、規則を守る生徒を育てる。 ・個に応じた分かりやすい授業を心がけ、授業に積極的に参加する意識を育成する。 ・進路指導部と各学年との連絡を密にし、1年次から体系的な進路指導体制を確立することで進路意識を高める。 ・進路講話やインターンシップ等により職業体験活動への参加を増やし、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。 ・部活動紹介や見学会等を実施し、部活動加入率の上昇と各部活動の更なる活性化を図る。 ・農業クラブ活動をより活発にし、体験を中心とする農業教育を充実させ、魅力ある学校行事を実施する。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・いばらき高等学校学力向上推進総合事業への取り組みを継続することで授業改善と進路指導の充実を図る。		・基本的生活習慣の確立	・基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせる。 ・5分前行動を心がけさせ、時間の大切さを学ばせる。 ・豊かな人間性や素直な心を育み、好ましい人間関係づくりを学ばせることで、いじめの絶無に努める。		B
		・基礎学力の向上	・授業を大切にする。積極的に授業改善に努めることで、学習内容の質的向上を図る。 ・わかる授業、楽しい授業を工夫・展開することで、関心・意欲を引き出し、主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。 ・生徒個々の能力の伸長を図り、観点別学習状況の評価を踏まえた学習評価を実施する。		B
		・系統的な進路指導と指導体制の確立	・系統的な進路指導計画に基づき、学年段階ごとに応じた適正な進路指導を行う。 ・生徒の進路に沿った自己実現のための、適切な支援・指導を行う。 ・勤労観・職業観を育成するために、様々な体験活動に取り組ませる。		A
		・特別活動及び部活動の活性化	・ボランティア活動、社会教育活動、環境美化活動等への積極的な参加を促す。 ・学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を充実させ、生徒に達成感を持たせる。 ・運動部・文化部等の加入率の向上を図り、部活動の活性化に努める。		A
		・健康と安全教育の充実	・学校施設等の点検・充実に努め、安全な校内環境の整備を進める。安全教育の徹底、特に交通事故の絶無に努める。 ・防災、不審者対応などのマニュアルに基づいた危機管理を徹底し、訓練等による十分な備えを怠らないようにする。 ・生徒及び職員の健康管理に努め、健康の保持増進を図る。		A
		・農業教育の充実	・一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業への取組を推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 ・いばらき高等学校学力向上推進総合事業の成果を検証し、資格取得への積極的な取組と合格率の向上を図る。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませ、学校農業クラブ活動の充実を図る。 ・開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習（インターンシップ等）の充実を図る。		A
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教 務 部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究	授業環境の整備を図る。 教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。 職員室の環境整備にあたる。		A A A	・授業に向かう姿勢づくりに目を向ける。 ・生徒の長所に着目した授業構成や声かけの工夫。 ・観点別評価をもとに考查内容の充実と評価の適正化を図る。 ・資格取得件数の増加を図る。 ・奨学金制度の周知を徹底し、進学支援の充実を図る。 ・水農体験・学校公開やホームページなどを通して学校外へ積極的に情報を発信していく。
	基礎学力の向上	授業研究（授業参観等）を実施し、授業内容の充実を図る。 生徒の潜在力を引き出す授業方法の研究をする。 基礎学力の向上を目指し、進路指導部や学年団との連携を図る。 資格取得に向けての取組を強化する（全体計画・指導計画の検討）。		B B A A	
	広報活動の充実	情報関連部門を中心に、ホームページを充実させる。 奨学金制度の広報活動を充実させる。 中学生や受検生に向けて、水農体験・学校公開やホームページの充実をさせていく。 中学生向けのPR活動の充実を図る。		A A A A	
	教育情報ネットワークの環境の整備	県教育情報ネットワークの更新及び校内ネットワークのシステム整備並びにネットワーク使用基準の作成。		A	
	ホームページの更新	ホームページの定期的な更新・内容の充実。		A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	朝の立哨指導を継続実施し、制服を整えさせる。 授業開始時間の着席を厳守させ、授業に取り組む態度を育成する。 挨拶の励行や身だしなみ・言葉遣い等、学校生活における基本的生活習慣を確立させる。 ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生徒の生活改善を図る。 授業の遅刻を防止し、時間の大切さを身に付けさせる。	A B B B	B	・教師間の生徒指導に対する共通理解及び共通実践を深める。 ・基本的生活習慣の確立を図り、社会に適応できるマナーやモラルの向上を図る。 ・学校行事や体験をとおして、思いやりのある心を育てる。
	安全な学校生活環境の維持	貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止に努める。 自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。 立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。 薬物乱用防止教室やケータイ安全教室等の各種講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	A B A A		
	心の教育の推進	農業教育や道徳教育を通してモラルの向上と命の大切さに気付かせる。 教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。 ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。	B A A		
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動を通し生徒の規範意識を高めさせる。 早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。また、生徒や保護者と相談できる環境を整える。 早期解消に向け被害者を保護し、速やかに実態把握及び加害者の対応にあたる。 保護者や警察、相談所等と連携し情報交換をする。 教職員の共通理解と指導力向上を図るための研修を充実させる。	B A A B B		
	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部活動も活性化を図る。 活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。 各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実に努める。	B B		B
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と会場の環境整備を図る。 各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A B		
	成達会活動の充実	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B		
	系統的な進路指導の充実 （多様な進路実現への対応）	3年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。 学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。 各種進路情報の収集と積極的活用、情報の共有を図る。 係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	B A A B	B	・定期的な進路部会を開催する。 ・役割分担を明確にし、組織的に行う。 ・読み聞かせボランティアの実施方法を検討する。 ・進路希望の実現100%，満足度80%以上を目指す。 ・教職員の進路研修を実施する。 ・コミュニケーション能力が低い生徒に対する進路指導の工夫改善。
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。 大学説明会や大学見学会への積極的な参加を促し、希望する進路実現を目指す。	B B		
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。 積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	B A		
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	A	A	学校内の各施設の環境を整備し、職員・生徒が安全かつ快適に過ごせるように環境改善に努める。（校舎外トイレの改修（洋式化等）、更衣室整理、職員室のエアコン改修（スイッチ等）、教室のエアコンのメンテ（H31～）、インフル対策用品、清掃用具など）
	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。 感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A B		
	校舎内外の学習環境の安全と美化 防火防災対策の徹底	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。 暖房器具の安全な利用を指導する。 地域と連携した防災避難訓練を実施する。	B B A		
図 書 部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門学校として関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。	A A A	A	今年度は後藤先生を講師にお招きしての図書委員研修会を6～7回実施し、図書館の環境を飛躍的に改善できた。特に古い蔵書を整理・処分し、新刊などを見やすく配置できるようになった。また絵本コーナーのレイアウトを変え、館内が広く一望できるようにした。次年度はさらに研修会を継続し、より、見やすい本のレイアウトを考え、多くの生徒や先生方が利用しやすい環境を目指したい。
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報誌の発行により、読書活動の啓蒙を図り、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A A A		
	視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	A		
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室の図書館の学習環境の整備を図る。書庫の書籍の管理環境を改善する。	A		
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・VHSビデオの除籍作業し、蔵書点検を進め書籍の管理を図る。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
渉 外 部	P T A総会等の成功	P T A総会等について確実に保護者に連絡するために、案内文書を各家庭に郵送し、参加率を向上させる。	A	A	・各支部の行事への参加を促す。 ・支部役員の選出方法を工夫する。
	P T A支部活動の持続	P T A行事と運営委員会を同日に設定し、効率よい開催を目指す。	A		
	校外生徒指導の実施	支部の会員と学校の支部担当者との連携を深めて、支部の活動への会員の参加者数を増やす。運営委員会を活用して支部の活動の活性化を図る。	B		
	主催行事の充実	校門・後台駅での立哨指導を多くの会員で実施していく。	A		
	広報活動の充実	水農祭・公開講座・視察研修等の本部主催行事は工夫を凝らし、参加率を高める。	A		
農 場 部	農業後継者・農業関連産業従事者の育成	広報紙・HPでの行事の案内や報告など、わかりやすくP T A活動を広報していく。	A	A	・校外実習体験活動や地域連携活動を推進すると同時に、より円滑な運営を追求する。 ・新規導入や更新の必要な施設設備を整理し、農場整備計画を更新する。
	開かれた学校づくりを継続・発展と地域と連携した体験学習の充実	一人一人が輝く活力ある学校作り推進事業を充実させるとともに、校外実習体験活動を推進する。	A		
		各学科の専門性を生かした資格取得を計画し、合格率向上への指導を充実させる。	A		
		G A Pの教育を推進する。	A		
		「農産物直売会」の運営に取り組む。	A		
事 務 部	適正な会計事務と計画的な予算執行による円滑な学校運営	幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。	A	A	H31予算書の計画的かつ効率的な編成による高額備品費の確保及び、国体関連経費の活用により教育施設・設備の大幅な充実を図る。
	学校施設設備の充実	地域連携を取り入れた学習（研究）活動を推進する。	A		
	学校徴収金等の滞納の解消	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。	A		
		農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。	A		
		各学科の専門に関する知識・技術の学習を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。	A		
国 際 教 育 委 員 会	ニュージーランド研修の実施	農場整備計画の更新	B	B	・タイへのホームステイを実施する。 ・生徒や他の職員にも声かけをし、また広報活動も活発に行う。
	タイホームステイの実施	適正な会計事務及び集約した発注事務などにより、会計事務の適正化・効率化を図る。	B		
寮務委員会	基本的生活習慣の確立	教職員と連携を密にし、年間を通した計画的な執行により、円滑な教育活動に努める。	A	A	・寮の運営形態を確立する。 ・生徒指導のルールを構築する。 ・寮生の営農教育の充実を図る。 ・長期生の増加に伴う義務入寮の在り方を検討する。
	寮運営の改善及び活性化	学校施設設備の整備を計画的に推進し、教育環境の充実を図る。	A		
	家庭・地域との連携	保護者の納入意識の高揚を図るとともに、学年・担任との連携の下、学校徴収金等の滞納者の減少を図る。	A		
1 学 年	基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、服装頭髮指導に力を入れ、日頃の小さな取組を積み重ねていく。また、規範意識を持った行動ができるよう、集会やホームルーム・授業や実習の中でも継続して指導していく。	B	B	遅刻指導に力を入れ、時間に関する意識を高め、人の話に素直に耳を傾けながら、自分自身を向上させようとする態度を身につけさせたい。ボランティアに積極的に参加しながら、勤労の持つ価値について考え、進路についての考えを深めさせたい。
	進路指導の充実	昨今の厳しい進路状況に対し、1年次より勤労観・職業観を育成するため、進路指導部等と連携し、課外授業やガイダンス等を実施する。また近年基礎学力が重要視されているため、資格取得等への積極的な取組を通して、学習習慣を身に付けさせる。	B		
	活力ある生徒の育成	運動部・文化部等への加入やボランティア活動、また農業クラブ活動への積極的な参加を促すことで、活力ある生徒の育成を目指す。	B		
2 学 年	基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身につけさせるために、清掃活動の指導、遅刻防止の指導、服装の指導を継続していく。	B	B	これまで規範意識の向上を目指し、きめ細かい生活指導を行ってきた。生徒が落ち着いて学校生活をおくれる環境が整いつつある。次年度は個々の進路実現に向け、学年一丸となって計画的に取り組んでいきたい。
	基礎学力の向上	教科担当者と連携し、生徒が落ちついて授業に取り組める環境を整える。さらに課外授業等で学力の向上をはかる。	B		
	進路指導の充実	進路ガイダンスや体験学習を通して、進路希望を明確にさせるとともに、希望の実現のために課外学習や資格取得に積極的に取り組むよう促す。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
卒 学 年	進路希望の実現	個々の進路実現のために、生徒とのコミュニケーションを密にし、課外授業等のきめ細かい進路指導を行う。問題集等を有効に使い、一般常識・基礎学力などを身に付ける。小論文指導・面接練習などを繰り返し行う。	A	B	大学進学者に対しては進路希望実現のための課外授業（教科指導、小論文指導）をできるだけ早く開始し、生徒の自覚を促すことが大切である。また、就職・専門学校希望者については、面接指導を重ねることが必要である。進路指導を通じて、規範意識や基本的生活習慣を確立。
	基本的生活習慣の確立	進路実現のためにも、遅刻・欠席を極力減らし基本的生活習慣を確立させる。普段の生活の中で、適切な態度や正しい言葉遣いができるように指導する。	B		
	規範意識の高揚	最高学年としての自覚を持ち、社会のルールを守り、下級生の模範となるような学校生活を送らせる。家庭との連絡を密にし、指導していく。	A		
農 業 科	農業教育の充実	資格取得のために組織内外の連携を深め指導体制を充実させる。農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A	B	・GAP認証の取得をとおしてさらなる農業教育の充実を図る。 ・生活面・学習面ともに基礎基本の指導を徹底する。 ・国体会場としての意識を高め、環境整備に努める。
	基本的生活習慣の確立	挨拶を励行し、規則や時間を守り、自立できる基本的な生活習慣を育てる。	B		
	進路希望の実現	面接など繰り返し指導を行い、専門分野の知識を定着させ、就職や進学の実現させる。	A		
	学習環境の安全と美化	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確にし、指導・監督の徹底に努める。実験実習室内外の美化及びごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	B		
畜 産 科	授業態度の向上	授業・実験・実習の開始時の整列を励行する。返事・服装の指導を行い、きちんとした態度で学習させる。実験実習の準備から展開・後片付けまで、生徒の実験実習における自主的参加を図る。	B	A	・授業開始時の整列の徹底を図る。 ・資格取得合格率を高まるように課外等を実施する。 ・一人一人輝く推進事業の継続および未実施の鶏班で実施する。
	体験教育の推進	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命の大切さを感じる教育を実践する。（分娩管理実習・解剖・解体実習の活用・畜体の測定・動物の運動・食品の加工）	A		
	個に応じた指導	課題研究において、一人一人の目標に沿った課題の設定や内容の充実を図る。専門科目の特色を出し、資格取得の目標を持たせるなど教育内容の充実を図る。	A		
	畜産場の地域社会への開放 わかりやすい授業の展開	牧場を地域社会に積極的に開放し、教育活動の活性化を図る。専門科目学習教室授業と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	A		
園 芸 科	わかりやすい授業の展開	専門科目学習教室授業と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	A	B	・「農業と環境」の授業において実習で栽する品目を増やし、実習と座学をリンクさせた授業展開をより充実させる。 ・計画的な栽培計画の下、プロジェクト学習の実施、直売所の販売計画に合わせた学習活動を展開していく。 ・課題研究発表会や学科集会において生徒が自らの考えを発表できる機会を充実させていく。
	園芸作物の栽培技術の習得	プロジェクト学習の取組と、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。特に直売所の運営に積極的に参加させ、年間計画から販売までを通して、6次産業化する農業の実情に合わせた指導を行う。	B		
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	課題研究・農業クラブ活動で、一人一人がテーマを設定し、自ら問題を解決していく力を育成する。特に地域との連携を深められる活動を強化していく。課題研究発表会で、意欲的に発表できるようプレゼンテーション能力の育成ときめ細かな指導を行う。	B		
農業土木科	理解に繋がる授業の展開	各学年において、段階的な学習活動を確立し、基礎・基本を踏まえた授業を展開する。授業の目標や到達点を具体的かつ明確にし、理解できる授業の実施と授業内容の充実に努める。	A	A	学力向上に向け、ICTの活用やグループ学習を取り入れるなど、授業改善に努めてきた。また、現場実習や体験学習を実施するなど、生徒が校外で学ぶ機会を増やしてきた。その結果、資格取得に対する意欲が高まり、関連産業への就職が定着しつつある。今後は、生徒が積極的・主体的に学べる学習環境を整え、さらなる関連産業の後継者育成を目指す。
	理論と実技の一体化	理論と実務演習を連動させた授業を展開することで、知識と技術の定着を図る。	A		
	プロジェクト学習の推進	社会貢献及び地域貢献を目標としたプロジェクト学習や課題研究の展開など、生徒が積極的、主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	B		
	社会貢献・地域貢献活動の推進	生徒が学ぶフィールドを学校内および校外に広げることで生徒の学習意欲を高め、キャリア形成及びシティズンシップを高める学習機会を整える。	A		
生活科学科	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、有機農法で作物を作り、自給の体験を通して生きるということの本質を理解させる。	A	A	新たに豆腐のプロジェクトを実施したが、自立した生き方につなげるという点では、まだまだ豆腐作りの技術は未熟である。製造技術向上が課題である。
	自立した生き方、本来あるべき生き方の探求	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べること」に興味を持ち、食べることの本質を理解する。農業と環境について理解させる。	A		
		2年 栽培管理ができるようになることを通して、自信と誇りを持たせる。 3年 自ら課題を設定し解決することで、自立した生き方につなげさせる。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
食品化学科	わかりやすい授業の展開	農業への興味・関心を高めさせ、社会との関連性を意識させる。 各専門科目の関連性を意識させる。	A	B	社会性を身につけてもらうために、学科集会の数を増やし、正装を心がけるよう意識をしてきたが、なかなか統一が図れなかった。実験・実習、農業クラブ活動を通じて探求的な学習ができるよう、これからも教材研究や生徒の指導に当たっていきたい。乙4類及びボイラーの合格者が少なかったので、放課後の補講強化等を行っていく。
	進路指導の充実	進学・就職希望の生徒に対する計画的・継続的な支援に努める。また、資格取得への興味関心を高め、受験者及び合格率が上がるように放課後の課外を実施する。	B		
	対外的な活動の充実	農業クラブ活動を中心として、農産物直売所やインターンシップの機会を増やすことで、生徒が積極的、主体的に学ぶことのできる機会を増やしていけるように努める。	A		
農業経済科	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや授業を通して身だしなみやマナーについて常に意識させる。	B	A	時間や服装について、自主的に行動できるようにする。
	学習意欲の向上	資格取得など生徒一人一人の目標を定めることにより、意欲的に学習に取り組ませる。インターンシップなど校外でも活躍の場を広げ、生徒の自主性を育てる。	A		
	進路指導の充実	進路意識を高め、自己の進路実現のための態度を育てる。	A		
	広報活動の充実	ホームページや学科通信の充実を図る。	A		
国 語 科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。漢字力をつけるため授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため漢検を活用する。	A	B	生徒の実態を踏まえ、基礎・基本を定着できるよう、授業の展開、教材選びを工夫して行うことが出来た。次年度は一層表現力を高めるために、教材作りの工夫を継続する。
			B		
	表現力の向上（進路対策）	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成する。書籍や新聞等を活用し、自ら考える力を養い、自己表現力を高め、生徒の進路に応じた個別指導を充実させる。	B		
地歴・公民科	日本国及び世界の国々が形成される歴史的過程と地域的特色の違い及び現代の社会についての理解と知識の深化を図る。	教科書のみならず、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を確認していく。基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A	A	・変化の大きい社会情勢を加味し、今後も最新の情報と視聴覚教材を用意し、生徒の意欲関心を高める。 ・基本的な授業態度の育成ができていので継続して取り組む。今後は生徒の意見発表ができるような授業展開を行う。
	現代の国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一市民として必要な自覚と資質を涵養する。	授業に臨む姿勢を整えさせる。時事問題などを教材として積極的に取り入れ、社会的な関心を喚起する。更に生徒が理解を深め、意見発表できるようにする。ノート提出・小テストの実施等を定期的に実践し、生徒が現代社会に必要な基礎的な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	B		
			A		
数 学 科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、希望する進路に沿って個別に課外を実施し対応する。	A	A	・生徒の実態に沿った指導と評価の工夫を行う。 ・ICTの活用に関する研究をし、授業に反映させる。 ・数学検定課外を充実させる。
	数学検定資格取得の奨励	学期に1回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	B		
理 科	教員の指導力の向上	積極的な授業公開や、授業内容や指導法について情報交換を行い、自己研鑽に努める。	A	A	進学者を対象にした課外授業は、各学年の理科教諭が主体となって実施することを継続する。本校の実態に合わせた探究活動ができるように、教材研究に努める。
	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。			
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と生物・化学の関連性を理解させる。	B		
保健体育科	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	A	A	・運動技能が上がるような取り組みの工夫を行う。 ・集団行動の意義を伝え行えるようにする
	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。	A		
		集団としてのきまりを守り、活動できる体育学習を展開する。 目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	B		
芸 術 科	基礎学力の向上	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。 名品・名跡を鑑賞し、自己の向上を図らせる。	A	A	
			A		
英 語 科	基礎学力の向上	単語練習や英文理解の反復練習や辞書や副教材等を活用し、基礎から学習できる環境を与え、きめ細かな指導を行う。 教科書やノートの準備等、授業に臨む態度を確立させる。	A	B	・より会話力を高めたり、自分の意見を伝えようとする意欲が高まる指導をする。 ・大学進学者にはより上級のSTEP英検取得を目指す。 ・ALTとのティームティーチングを、より効果的なものになるように計画する。
	モチベーションの向上	ALTを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。 簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	B		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。 STEP英検等、より上位の資格取得を奨励する。	B		
			B		
家 庭 科	家庭生活の課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習等を通して基本・基礎的知識や技術の習得を図るとともに、心の触れ合いを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	A	A	・自立した家庭生活を営むことができるように基礎的知識・技術の定着を計る。 ・自ら考え、行動する態度を育成するための学習方法を工夫する。
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより生徒の興味・関心を高め、家庭生活をより身近な問題として捉えさせる。	A		